

全国の女性看護職有資格者を対象にした次世代コホート研究
Japan Nurses' Health Study - The Next Generation (JNHS-II)
「女性の生活習慣と健康に関する疫学研究」

参加協力の お願い

長期の調査にご協力いただける1972年～2000年生まれの
看護職の資格（看護師、准看護師、助産師、保健師）を
もつ女性を募集します！

日本人女性の健康の維持・向上のため、日本看護協会の協力のもと、2001年から女性看護職者を対象に、日本ナースヘルス研究 (Japan Nurses' Health Study : JNHS) を20年以上にわたり実施しています。

今回、次世代を担う22歳～50歳の女性看護職者を対象に新たな研究を開始します。月経関連疾患、不妊症、若年に発症する貧血、子宮内膜症、子宮筋腫、片頭痛など有症割合や女性ホルモン剤の利用、婦人科領域のがん検診といった女性固有の保健医療習慣の実態を把握することで、さまざまな症状や疾病の発症予防につながる若年時の生活習慣因子を探索することを目的としています。

これまでの研究でわかってきたこと
(対象者は1930年～1980年代出生の女性)

出生年代別初経年齢の変化

出生年代が1930年代～1950年代と比較して1960年代～1980年代の方が初経年齢が早い傾向がみられています

喫煙習慣の変化

女性喫煙者において妊娠・出産が最も多い禁煙の機会となっており、妊娠・出産後の禁煙の継続が重要であることがわかりました

出生体重や思春期のやせと肥満と糖尿病との関連

出生体重が低い、思春期のやせ、もしくは肥満が糖尿病の発症に関連があることがわかりました

その他にも様々な研究報告を
英文論文等で発表しています。

[こちら](#)からご覧ください。



資料請求フォームは
[こちら](#)



JNHS研究群総括代表者
JNHS-II 看護専門委員長
JNHS運営委員会委員長
JNHS-II 研究代表者

林 邦彦 (群馬大学理事・副学長・特別教授)
井本 寛子 (日本看護協会 常任理事)
高松 潔 (東京歯科大学市川総合病院産婦人科)
長井 万恵 (群馬大学 数理データ科学教育研究センター)

これからの研究で明らかにしたい主なこと
リプロダクティブヘルス関連因子

初産年齢が後年へとシフトしてきている現代で、不妊の予防に役立つ因子の探索を行います。

女性ホルモン剤の使用状況

エストロゲン・プロゲステロン製剤の月経困難症治療薬への適用などを受けて、次世代コホートでのホルモン剤使用状況の把握を行います。

その他にも次世代コホートでの年代別の変化や、時代とともに変化する生活習慣や環境による影響などの検討を実施するとともに、現代から未来の女性の健康に関する情報発信をしていきたいと思いをします。

JNHSによって得られた知見は、将来の日本人女性の健康増進に役立つことが期待され、疫学調査の利益を得るのは主に未来世代の人たちです。一昔前の方々がくれた医学知識や技術により今を生活している私たちが、子や孫の未来世代へ「健やかで穏やかな生活を営むための贈り物をする」という思いです。調査にご協力くださる皆さまへお礼は、女性の健康に関する国内外の研究の紹介やJNHSの進捗状況・成果を掲載した「ニュースレター」による健康に関する情報のご提供です。皆さまの健康管理に少しでもお役に立てるように、毎年（11月～12月頃）「ニュースレター」をお送りします。